

2023 年度夏季 Web インターンシップレポート

(主催：オープンテクノロジー株式会社)

開催日：2023 年 8 月 17 日（木）～30 日（水）の土日を除く 10 日間

9:00～17:30（うち 1 時間昼休憩あり）実質 75 時間

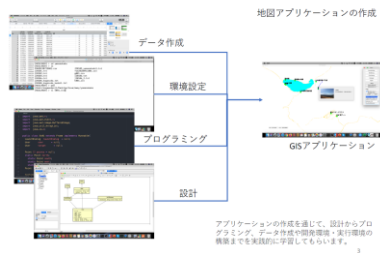
参加者：7 名（香川高専（高松キャンパス）・サレジオ高専・新居浜高専・石川高専・仙台高専（広瀬キャンパス）・長野高専・産技高専（品川キャンパス）
（全員本科 4 年生・申し込み順）

対象：主に情報系学科在籍者

内容：キャリアデザイン研修・業界研究・弊社紹介・ビジネスマナー体験・ライティング研修・プレゼン研修・業務プログラミング実習（GPS を用いたアプリケーション開発）・弊社エンジニア（OB）との交流等、業務の実体験はもとより、今後就職活動を経て企業への就職・業務従事に実践的に役に立つ内容となっています。

* プログラミング実習の詳細は、「プログラミング実習内容詳細（2023）」PDFを参照。

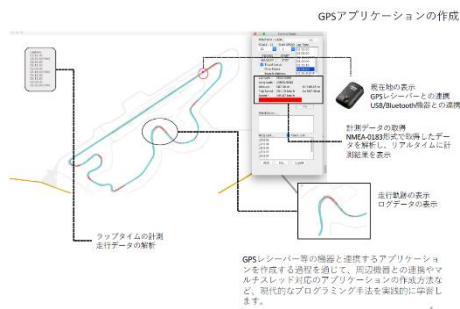
地図アプリケーションの作成概要



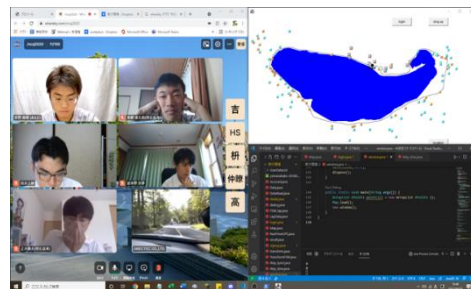
開発プロジェクトの体験



GPS アプリケーションの作成概要



実習の様子



実習評価制度

弊社独自の評価制度としまして実習をより実りあるものとするため、経済産業省提唱の「社会人基礎力 3つの能力/12の要素」を採用し、あらかじめ実習開始前に自己分析を行い、実習後のレベルアップする要素の目標を立て、実習に入っております。

実習後は、目標到達レベルを自己分析し実習の成果を確認し、更に弊社からの評価を行い今後のスキル向上の参考にして頂きます。

参加者の実習前の自己採点結果では、主体性・課題発見力・傾聴力・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力に関しては日常的な取り組みがほぼできていると感じているものの、実行力・計画力・創造力・発信力の点では不足を感じている傾向となっています。

そのため参加者は、上記不足する点を向上目標に掲げ、絶えず意識しながら実習に取り組んだ結果、実習期間中に概ね能力向上できたと感じており、実習内容は期待に即したものであり成果が表れたものと考えております。

* 「社会人基礎力 3つの能力と12の要素」とは

1 前に踏み出す力

主体性：物事に進んで取り組む力

働きかけ力：他人に働きかけ巻き込む力

実行力：目的を設定し確実に行動する力

2 考え抜く力

課題発見力：現状を分析し、目的や課題を明らかにする力

計画力：課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力：新しい価値を生み出す力

3 チームで働く力（チームワーク）

発信力：自分の意見を分かりやすく伝える力

傾聴力：相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性：意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力：自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性：社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力：ストレスの発生源に対応する力

修了後のアンケート結果

1 インターンシップに参加して自分の役に立ったことは何ですか。(複数回答可)

- ・働くことの厳しさを知った (4人)
- ・現場の技術を体験できた (5人)
- ・今後の勉強の方向に影響を受けた (6人)
- ・職業選択の参考になった (6人)
- ・学校で学んだことを体験できた (3人)
- ・会社で働く先輩との交流ができた (1人)

2 インターンシップのプログラム(実習内容)に満足しましたか。

- ・満足した (5人)
- ・やや満足できなかった (2人)

3 会社側の指導・対応はどうでしたか。

- ・良かった (6人)
- ・あまり良くなかった (1人)

4 実施時期・実施期間はどうか。

- (実施時期)・適当だった (7人)・他の時期が良かった (人)
- (実施期間)・適当だった (6人)・短かった (1人)・長かった (人)

5 インターンシップに参加するに当たっての問題点があれば指摘してください。

(その他意見)

- ・時間があれば、もっと色々な機能を制作して試してみたかった。
- ・社会人基礎力という概念を体験・習得できたことは今後役に立つ。

(受講レポート1)

1. 経験した内容

複数人数での作業。作業予定の立て方。

地図描画に関係する緯度経度の変換などのプログラム実装方法。

URLでのデータのやり取り。社会に出る上で必要な文章力や知識など。

2. 実習を行う上で工夫した点

コミュニケーションをとる前に自分の言いたいことを明確にして、わかりやすいように伝えること。

作業にかかわる疑問は自分の中だけで解決をするのではなく、作業メンバーと意見を交換するなどして勘違いを起こさないようにした。

遠隔でカメラを通して行ったので、こちらの反応が分かりやすいように大きくリアクションを行うようにした。

3. 実習を行う上で感じたこと

作業を行う前に予定を明確にしておかないと、メンバーとやりたいことの意見交換ができず、引継ぎを行った際にうまく行うことができなかったこと。

学校よりも時間が長いため、より集中して行わなければならないこと。

出た意見を整理する人がいないと、意見交換など際に多くの意見が整理されていない状態で混在してしまうため、1つにまとめるのが難しくなってしまうこと。

自分のことばかり集中してしまうとメンバーに対しての行動が減ってしまって、2度手間になってしまうなどで時間を使ってしまうこと。

4. インターンシップに参加したことで成長できたこと、気が付いたこと

インターンシップに参加する前に掲げた目標は、自分の実力を知ることと主体性を上げることだった。今回の実習を通して自分の実力を知る事で就職するまでに何を行うか明確にすることができ、自分から行動を起こすことの重要性も理解できた。

分からない部分をインターネットなどを使用して調べる前に、自分で考えることによって新しい気付きがあるということがわかった。思考力が足りないことに気づいたので、答えとして示されている物を見る前に自分で考える癖をつけたい。

5. インターンシップで感じた社会とのギャップ

学校では過程を勉強するが、社会では決められた目標を他の会社よりもより良く、そして早く達成しなければならないということ。

学校では個人作業が多く自分のみで解決してしまえることができるが、社会では自分のみで行うことはほぼなく、わかりやすく伝えなければならないということ。

学校よりも厳密に上下の関係があり、敬語などの使い方も大きく変わってくるということ。

6. 今後学生生活（勉学・クラブ活動・サークル活動・趣味・日常生活等）で役立てたいこと

自分から行動することの重要性が理解できたので、学校で行っているグループ作業の際に自分から積極的に行動するなどして役立てていきたい。

足りない部分を明確にすることができたので、自分の能力を上げるために学んだことを役立てていきたい。

勉学の時間では答えを見る前の考える時間を増やして、自分で考えるうえで学んだことを思考力を上げるために役立てたい。

(受講レポート2)

1. 経験した内容

社会人基礎力を上げるための講座。

Java awt を用いた地図プログラムの作成。

チームを組んで共同作業でプログラミングを行う。

自分たちで作ったプログラムで実際に GPS を追えることができているかのテスト。

2. 実習を行う上で工夫した点

チームメンバーと会話をし、やることをお互いに確認しあいながら作業をした。

講師の話をしっかり聞き重要なことは忘れないようにメモを残すことを意識した。

ソースコードをシンプルかつ短く書くことを考えて作成した。

3. 実習を行う上で感じたこと

ソースコードの中でわからないところが出てきたときに自分で調べて考えるよりも作成した人やそのコードを理解している人に聞く方が速くてわかりやすいということ。

KANBAN をしっかり製作すれば KANBAN を作らないときよりも作業に取り掛かる時間が短くなるということ。

4. インターンシップに参加したことで成長できたこと、気が付いたこと

Java の awt についての知識や製作するコードが身についた。

KANBAN の使用により課題発見力と計画力がレベルアップできた。

5. インターンシップで感じた社会とのギャップ

仕事の業務はもっとスピード重視で厳しいものだと思っていたが、実際は自分が1日ごとにやる作業を確実に終わらせることが大事だということ。

6. 今後学生生活(勉学・クラブ活動・サークル活動・趣味・日常生活等)で役立てたいこと

KANBAN を有効活用し部活の提出物や学校の課題を順序だてて終わらせていきたい。

(受講レポート3)

1. 経験した内容

- ・チームでのプログラムの共同開発
- ・カンバン方式によるタスク管理
- ・緯度経度や三角関数など、他分野の知識の応用

2. 実習を行う上で工夫した点

- ・プログラムを書く際、処理が複雑にならないように役割ごとにクラスへ分割した。
- ・メルカトル図法のように地図が横長にならないように、三角関数を用いて描画した。
- ・地図内で用いるデータをできる限り外部から読み込めるようにした。

3. 実習を行う上で感じたこと

- ・今までプログラムを書くときはずっと一人だったため、チームメイトとの連携が難しかった。
- ・カンバン方式によるタスク管理が難しかった。
- ・数学をプログラミングに活かすのは楽しかった。

4. インターンシップに参加したことで成長できたこと、気が付いたこと

- ・課題を発見する力が培われたと感じる。
- ・プログラミングの分業は思っていたより難しいと思った。
- ・根を詰めないように適度に休憩をとることの重要性を知った。

5. インターンシップで感じた社会とのギャップ

課題に期限が設けられているのは学校と一緒にいるが、仕事の場合は「相手」が存在しており、自分の失敗により誰かに迷惑がかかってしまうという点がギャップだと感じた。

6. 今後学生生活（勉学・クラブ活動・サークル活動・趣味・日常生活等）で役立てたいこと

- ・今回培われた課題を発見する力を自身の学力の向上に役立てたい。
- ・ストレスをコントロールする力も少し成長したので、これを用いて日々の生活をうまく立ち回りたい。

(受講レポート4)

1. 経験した内容

グループワークによる地図アプリケーションの開発を行った。

グループワークを通して作業分担の手法・効果・難しい点を学び、今後もチームでの開発に役立てられるような知識の習得を目指した。

2. 実習を行う上で工夫した点

予習をしっかりと行い、プログラムについていけるようにした。

3. 実習を行う上で感じたこと

なにか課題が与えられていると、少々挫折しても続けなければいけないという強制力が生まれる。

すると今まで避けてきた技術にも触れる必要がでてくるため、大きく成長することができたように感じられる。

4. インターンシップに参加したことで成長できたこと、気が付いたこと

人からの指示を聞く、それだけのことがいまだに出来ていないことを再確認した。

インターンシップにはそんな自分を変えるために参加したが、そのうえで人の話を聞いていないと叱責をいただいたのがショックだった。

しかしここが大きなターニングポイントになったことが実感できた。

5. インターンシップで感じた社会とのギャップ

一般常識にかけていると感じた。

自分は理系だからという理由で文系科目から逃げていたが、社会で必要なのはただ技術がある人間ではなくそれらを活かせる人間であると実感した。

6. 今後学生生活（勉学・クラブ活動・サークル活動・趣味・日常生活等）で役立てたいこと

一人で作業を行うときは思うがまま気楽にしてきたが、こういった場では普段の姿勢がミスにつながってしまう。

そのため、一人での作業は複数人での作業という本番に向けた練習だという意識をもちたい。

(受講レポート5)

1. 経験した内容

ビジネスマナー・スキルの説明

OB やベテランエンジニアとの質疑応答などのコミュニケーション

講師の方からの GSP を用いたアプリケーション開発のための講義

GSP を用いたアプリケーション開発のためのグループでの地図データ作成

業務のためのタスク管理システムであるカンバンの活用

2. 実習を行う上で工夫した点

発言する場があるときには主体性を持つために積極的に発言をした。

提出物やメールを素早く提出することで、社会人としての規律性を意識した。

ユーザ目線の地図データを作成をした。具体的にはデータを調整することで、地図を見やすくした。

グループでタスクを済ませる時に、伝わるように噛み砕いて説明した。

3. 実習を行う上で感じたこと

グループで決め事をする際、司会・タイムキーパーが重要だと感じた。

カンバン通りにタスクを実行するのは難しかった。試しに何分か作業をしたあとで予定を立てれば良かった。

他の参加者学生との能力の差が感じられ、その差を勉強と実行力で埋めたいと感じた。

今回オンライン会議サービス whereby を使用したので、自分の顔が見えた。リアクションが薄いなど感じた。相槌を意識したい。

4. インターンシップに参加したことで成長できたこと、気が付いたこと

目的意識・疑問を持つことが重要だと、痛感した。作業したプログラムの活用例や自主学習のレベル、会話の意図を考えたい。

初対面の人と話すのは新鮮で楽しかった。なので、IT コンサルタントなどの職種にも興味を持った。

会話をまとめるのが苦手だったので、会議の司会を行ったこと。苦手なことにチャレンジできた。

積極的に発言したので、自信がついた。

5. インターンシップで感じた社会とのギャップ

人間関係が社会は縦、学校は横ということ。学校でも縦の関係を意識していきたい。

持っているのが社会人は実用的なレベルの知識であること。

作業時に社会ではチームで行い、学校は個人で行うこと。チームで何かを達成すること

を増やしていきたい。

6. 今後学生生活（勉学・クラブ活動・サークル活動・趣味・日常生活等）で役立たいこと

グループで作品を作っていく楽しさを味わえたので、友人とも行っていきたい。

その際、スムーズな作業をするために今回使用したカンバンを使用したい。

プログラムを作成する時に必要であった、今まで関心が低かった地理・歴史の知識を蓄えたい。

エンジニアとして、何に活用できるのかを考えて勉強していきたい。

(受講レポート6)

1. 経験した内容

実際にグループを組んで複数人で計画を立てて作業を行うことを経験した。

2. 実習を行う上で工夫した点

今自分が行っている作業やこれからやらなくてはならない作業をなるべく明確にし、不明な点がないようにしたり、グループ内での話し合いなどで積極的に意見を出すようにした。

3. 実習を行う上で感じたこと

今回の実習ではプログラムの内容について難しいと感じた部分も多くあり、自分の実力が足りていないと感じた。

これから就職するにあたって実力を高めていかなければいけないと感じた。

4. インターンシップに参加したことで成長できたこと、気が付いたこと

実際に業務でプログラムをするときの計画の立て方や、複数人で作業をするときの分担の仕方などを学ぶことができた。

また、実習開始時に課題として挙げていた他人に働きかける力や、自分の意見を分かりやすく伝える能力なども身についたと思う。

5. インターンシップで感じた社会とのギャップ

これまで自分一人でものを作るときはコストや制作時間などはあまり考えてこなかったが、実際の社会ではそれらがとても重要なのだと感じた。

6. 今後学生生活(勉学・クラブ活動・サークル活動・趣味・日常生活等)で役立てたいこと

他人に働きかける力や、自分の意見を分かりやすく伝える能力などを磨くことができたので、行事などで積極的に意見をしたり、授業での発表などで、分かりやすく伝えられるようにしたい。

(受講レポート7)

1. 経験した内容

- ・複数人での同一の作業における、仕事の設計や振り分け
- ・学校と会社の違いや、社会に出ることにおいて必要な要素の学習
- ・成果物の実地テストの観戦やプレゼンテーション

2. 実習を行う上で工夫した点

- ・作業開始前に、必要な作業をリスト化して計画を立てた。
- ・作成したデータを共有する際に、他の人に中身がわかるように説明を置いた。
- ・疑問点があればなるべくチームメンバーに相談するようにした。

3. 実習を行う上で感じたこと

- ・個々人がもつイメージのすりあわせの難しさ。
- ・年齢層が学校と会社とで同一であれば、似たような人間関係になるということ。

4. インターンシップに参加したことで成長できたこと、気が付いたこと

- ・いままで学習してきたプログラミングと開発に必要なプログラミングの方向性の違い。
- ・プログラミングにおいて、コードを書くこと以外も重要だということ。

5. インターンシップで感じた社会とのギャップ

- ・学校で学んだことが社会で役立つとは限らないこと。
- ・需要と供給が必ずしも一致するとは限らないこと。

6. 今後学生生活（勉学・クラブ活動・サークル活動・趣味・日常生活等）で役立てたいこと

- ・入出力やユーザーのことを考えたプログラミングをすること。
- ・今後計画を立てる際に、カンバンなどの実習で学んだことを用いること。